

塚本会頭は、多くの会員の皆様との対話を通じ、魅力的な商工会議所づくりを目指しています。現場の声を会議所運営に、会頭の会員訪問レポートをお届けします。

京都を愛し、 京都に愛される 会社を目指して

クラフトビールの醸造、販売を手掛ける京都醸造株式会社さんを訪問し、社長の SPEED PAUL (スピードポール) さんにお話を伺いました。

(訪問日：8月1日)



▶ 京都醸造株式会社

代表取締役 SPEED PAUL さん

日本で出会ったカナダ人・アメリカ人・ウェールズ人の3人が、ビール好きが高じて2015年の初めにクラフトビールの小規模醸造所を開設。伝統を重視した製法のビール大国ベルギーと、毎年新しいスタイルを次々に生み出すクラフトビール先進国であるアメリカから双方の良さを掛け合わせた製法を考案し、これまでにない独特の味わいを生み出した。定番の商品だけではなく、原材料の組み合わせや製造工程を調整することで年間60~80種の限定ビールを販売、これまでクラフトビールになじみの薄い層にも気軽に飲んでもらえるよう、ファンの裾野を拡大させている。

変わらぬ想いと改革したビジネスモデル

「伝統と先進性が混在する京都で、“京都”の名にふさわしいビールを作りたい」と想いを貫いてきた。首都圏や京都の飲食店を中心に徐々に取扱店を増やしていた矢先、コロナ禍に見舞われる。飲食店の休業で販売が苦戦する中、新たな市場を開拓すべく缶詰機械を導入し、スーパーなど小売店への缶ビールの卸販売に本格的に取り組んだ。「缶ビールの発売はより多くの人に飲んでもらえる契機となった」とポール社長。缶にはインパクトのあるデザインを施し、「一期一会」等のメッセージ性のある商品名とともに作り手の想いが届くよう工夫している。

また地域とのつながりを大切にしたいと、与謝野町産ホップや宇治茶など地元農産物を活用したビールづくりにも取り組む。ほかにもコロナに立ち向かう医療従事者への商品提供や原料に用いる麦芽などを一部京都市動物園へ飼料として寄付するなど、ビールも企業としても一層京都で愛される存在を目指している。



金・土・日は、工場併設のバーや屋外スペースでビールをお楽しみいただけます。おつまみは自由に持ち込めます！



風味を守るため、熱処理をしていません。そのため賞味期限が短く、延ばすことが課題です。

応援！



塚本会頭

多くの消費者に親しみを感じてもらうためには、作り手の“想い”や“顔”を十分に発信することが肝要です。ビールへの熱い情熱に京都への愛情が加わり、伝統と先進性から生まれるクラフトビールの魅力が全国へ広がることを期待しています！